

# 構造例示型(事例3) 常時逆洗運転による水質改善事例

## 【槽内状況】



通常の調整は汚泥移送停止。

事例番号	3		浄化槽メーカー	株ハマネツ		
処理方式	嫌気ろ床接触ばっ気		浄化槽型式	KGN3		
法定検査日	平成 24 年 11 月 6 日		人槽	7 人槽	使用人員	6 人
測定項目	1次処理 1室	1次処理 2室	2次処理	処理水槽/沈殿槽	放流水	
スカム厚(cm)	2	1	—	1	透視度	14 度
堆積汚泥厚(cm)	26	34	18	3	DO	3.4 mg/ℓ
透視度(度)	7	5	1		pH	6.7

法定検査からの 状況連絡・指示内容	槽内状況	2次処理槽内が活性汚泥化している。(透視度1度) 汚泥移送停止及び空気逃がし全閉にて調整中。 日平均汚水量 1.36m <sup>3</sup> /日 (薬の服用あり) 採水時間10:40				
	対策	2次処理槽内に剥離汚泥が多い為、逆洗及び汚泥移送を繰り返し行う。 1ヶ月を目安に常時逆洗運転に切り替える。				
保守点検からの措置 返信内容	11月8日	ばっ気を止め汚泥沈降後、移送する。(4回) 常時逆洗運転に切り替える。			透視度	15 度
					DO	3.2 mg/ℓ
					pH	6.8
	11月22日	通常ばっ気と繰り返し、汚泥移送実施する。 常時逆洗運転中。 2次処理槽内透視度 6度			透視度	18 度
				DO	3.9 mg/ℓ	
				pH	6.6	
12月6日	2次処理槽内透視度17度に回復する。 通常運転に戻す。			透視度	26 度	
				DO	4.5 mg/ℓ	
				pH	6.5	
12月20日	透視度改善しました。 通常運転で汚泥移送停止中。 DO回復、空気逃がしバルブ1/4回転(開)で調整する。			透視度	35 度	
				DO	5.3 mg/ℓ	
				pH	6.3	

## 【ポイント】



① スカムが越流せきまで浮上している。

② 2次処理槽内が活性汚泥化している。  
内液透視度 1度